



かに星雲シリーズ:その2 「明月記」・・・ブログに残る超新星

ふじわらのていか 藤原定家(名前の読み方は「定家」でも良い)は、へいあんじだい まっき 平安時代末期から鎌倉時代初期のくげ かじん 公家・歌人。生まれたのはせいれき 西暦1162年、亡くなったのがな 西暦1241年です。ひやくにんいっしゅ 百人一首のごんちゅうなごんさだいえ 権中納言定家は、この藤原定家のこと。せんじゃ 百人一首の選者でもあるんですよ。

こ 来ぬ人を まつほのうら 浦の タなぎに や 焼くや もしお 藻塩の 身もこがれつつ(百人一首の定家の歌)



さて、この藤原定家が書いた日記風のエッセイ『^{めいげつ き}明月記』。^{ちょうしんせい きじゅつ}超新星の記述があることでも有名です。^{じんるい ぼうえんきょう}人類が望遠鏡を使い始める前に知られている超新星は7つあります。そのうち3つがこの『明月記』に載っているのです。

西暦1054年のおうし座の「かに星雲(MI)」を作り出した超新星(SN1054)もその一つ。定家が生まれる前の出来事です。ちやくせつ ですから、直接、この超新星は見えてはいないことになりますね。

こうきしんおうせい 好奇心旺盛な定家は、ある日「^{かくせい}客星とはどんなものか」と^{おんみょうじ たず}陰陽師に尋ねたそうです。「客星」とは、^{とつぜん}空に突然、^{あらわ}明るく現れるお客さんのような星で、^{げんだい}現代でいう超新星。^{ていねい かいせつ}陰陽師は、丁寧に解説した手紙を定家宛に送りました。この陰陽師は、^{あて}天体を観察して^{かんさつ こよみ}暦を作るなどの仕事をしていた当時の天文学者、^{あべのやすとし あべのせいめい しそん}安倍泰俊(安倍晴明の子孫)です。

^{いぜん}以前、^{はくぶつかん}京都大学博物館の特別展示で本物の『明月記』を見る機会がありました。なんと定家の書いた文章の後に^は陰陽師からの手紙が^つベタリと貼り付けてあるではありませんか。今でいう「定家のブログに陰陽師がコメントをつけた」といった感じでした。

日本人は、昔からブログが好きだったんですね。2020年11月16日記(解説員: ^{かいせつじん おの なつこ}小野 夏子)